

15の事例から学ぶ

## 転倒骨折事故の防止対策

- 防げない事故にはトラブル防止策も -

認知症の利用者が突然立ち上がり、近くの職員が駆け寄りましたが、間に合わずに転倒しました。家族は「きちんと見守っていれば防げたはずだ!」と主張します。しかし、転倒事故の80%は、職員の手で防ぐことが難しいことが立証されていますから、どんなにきちんと見守ってもこの事故は防げません。転倒事故防止対策の問題点は、防げない事故がたくさんあり家族トラブルにつながることです。本セミナーでは15件の転倒事故事例から、転倒防止対策を検討し、さらに転倒による家族トラブルの防止対策も考えます。

1. 介助中に職員が肘打ちをくらって利用者が転倒骨折、職員の過失か?
2. 「私のミスで転倒させた」という言葉を信じて過失を認めたら
3. 浴室で転倒して重症、自立度が高ければ歩かせて良いか?
4. 利用者が自分でブレーキを外して車椅子が転倒、施設の過失か?
5. スリッパは危険だからリハビリシューズに履き替えて!
6. 移乗介助中の転倒事故の事故原因の分析方法
7. 「自立歩行中の転倒は過失ではない」と主張する施設
8. センサーマットを他の利用者に回したら転倒骨折、施設の過失か?
9. 「職員が交代でそばで見守る」という転倒防止対策は効果があるか?
10. 転倒事故後経過観察中の利用者を無理に歩行させ転倒
11. センサーコールの対応が遅れて転倒骨折、「施設の過失」という家族
12. 「独りでできる」と言ったので手を離し転倒、過失無い?
13. 介助中の転倒事故の対応で家族から執拗な抗議が
14. 「転倒事故のせいで死んだ」と死亡の補償を求める家族
15. 骨折すると困るので歩かせないで欲しい」という家族

※参加者は事例に目を通してからご参加下さい⇒[事例一覧] <http://tiny.cc/y2gzzz>

### 無料オンラインセミナー開催要領

- 開催日時: 2025年1月27日 13:30~15:00
- 主催: 株式会社安全な介護
- 講師: 株式会社安全な介護 代表 山田滋
- 参加費: 無料
- 参加方法: Zoomによるオンライン(接続PCは3台まで)
- 申込方法: 下記URLからお申し込み下さい(1月20日締切)

<http://tiny.cc/672zww>

お申込みいただいた方には、締め切り後に視聴用URLとテキストをメールで送付いたします。

### 講師プロフィール

山田 滋 早稲田大学法学部卒業と同時に現あいおいニッセイ同和損害保険入社。2006年7月よりインターリスク総研主席コンサルタント、2013年5月末あいおいニッセイ同和損保を退社。2014年4月より現職。高齢者施設や介護事業者と取り組み、現場で積み上げた実践に基づくリスクマネジメントの方法論は、「わかりやすく実践的」と好評。各種団体や施設の要請により年間150回のセミナーをこなす。

セミナーに関するお問い合わせは

株式会社安全な介護 セミナー事務局

mail:soudan@nanasha.co.jp